

令和6年度 学校経営の方針

県立五泉特別支援学校

1 教育目標「ともにきらめく」の具現化

教育目標の具現化を図るために、児童生徒一人一人に願う姿を明確にし、学習活動への意欲を高め、取り組んだ結果「もっとやりたい」「楽しくて満足した」「やり遂げて充実した」という気持ちの醸成を図ることを大切にします。このような心の有り様（爽快感）をきらめいている姿であると考えます。また「ともにきらめく」が意味するものは、子供同士はもちろん、子供と支援者（教師）という意味もあると捉えています。

この、ともにきらめく学校生活を具現化することを通して、主体的に生活しようという向上心を育てるとともに、現在及び将来の生活に必要な知識や技能を一つ一つ着実に身に付けていけるようにしていきます。

2 学習活動への意欲を高める授業の推進（教職員の専門性の向上）

児童生徒が「ともにきらめく」ためには、一人一人の児童生徒の学習課題を適切に設定すること、その課題に対して一人一人の児童生徒に応じた「できる状況」をつくること、そして、学習活動に取り組んだ結果、具体的にどんな力が身に付いたかを評価すること、の3点が必要となります。そのために、すべての教職員が授業実践に取り組む研修を設定します。授業づくりでは、上記の3点の視点を大切にして授業実践を積み重ね、教職員の専門性の向上を図ります。

また、引き続きGIGAスクールを推進し、授業実践をとおしてICTの効果的な活用についても研修を深めます。

3 保護者、地域、関係機関との強い連携

教育目標を具現化していくためには、保護者、地域、関係機関と同一歩調でともに同じ方向に向かっていくことが求められます。そのためには、保護者や地域等から信頼される学校でなければなりません。学校は、開かれた学校として必要な情報を分かりやすくタイムリーに発信したり、個別の教育支援計画の策定等をとおして、積極的に情報を求めたりするようにしていきます。

また、五泉市という地域を大切に、各機関と親密な関係を築けるよう、積極的に連携を推進します。加えて、村松分校とも緊密な連携を進めます。

4 五泉・阿賀地域の特別支援学校として、特別支援教育のセンター的役割の充実

特別支援教育のセンター的役割を担うには、特別支援教育に関して幅広く、深い知識や専門的な技能を有しなければなりません。例えば、発達をとらえる心理検査のこと、進路実現に向けてのキャリア教育や職業指導・職場開拓のこと、ユニバーサルデザイン化した授業のこと、重度・重複障害児の活動を保障する医療的ケアのこと、社会性を育むソーシャルスキルトレーニングのこと等。地域でのセンター的役割を担うには、様々な特別支援教育に関する情報を積極的に収集し、その内容を習得し、地域のニーズに応えていく役割を果たしていくことが求められています。村松分校と連携し、地域の特別支援教育のセンター的役割の充実を図ります。